



アスパラガスは土壌の保肥力を示す塩基置換容量（CEC）が高い圃場（ほじょう）ほど多収になる傾向があり、粘土鉱物資材や腐植資材を施用することでCECが上昇し、特に腐植酸液肥の効果が高いことが分かっています。そこで、腐植酸液肥の施用濃度がアスパラガス収量と栽培土壌のCECに及ぼす影響について検討しました。

県農林技術開発センターの細粒質黄色土圃場で実施した結果、腐植酸液肥の施用で作土のCECは上昇傾向にありました（表）。春芽の総収量と可販収量

は腐植酸液肥の施用で増加傾向にあり、特に100倍処理で最も多くなりました。腐植酸液肥施用によるCECの上昇は、上層

アスパラ春芽の増収

腐植酸液肥の濃度100倍処理が最有効

ほど大きくなりました。さらに、アスパラガスの半促成長期どり栽培において、冬肥前に腐植酸液肥100倍を施用する

腐植酸液肥がアスパラガスの春芽収量と土壌CECに及ぼす影響

年	希釈倍率	総量 kg/a	可販物		土壌CEC※
			重量 kg/a	一本量 g/本	4月測定値 me/乾土100g
2017	無処理	83	82	19	23
	500倍	90	89	17	23
	100倍	104	103	19	24
	50倍	93	93	18	24
2018	無処理	99	98	20	24
	500倍	101	100	18	25
	100倍	111	111	19	25
	50倍	112	111	18	25

試験開始時(2017年2月)の土壌CECは22me/乾土100です。
※深さ10~60cmの平均値

と、春芽の収量が増加する傾向があることが分かりました。今後は、腐植酸液肥施用による土壌団粒化の促進、土壌微生物への影響などの効果について検討する予定です。
（長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 土壌肥料研究室 室長 芳野豊）